

2019年度(平成31年度)学校評価自己評価表

福山市立精華中学校区	校番 15	福山市立 精華中 学校
最終更新日	2019年(平成31年)4月1日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	創造性	批判的思考・問題解決・意思決定	耐える力	人としての思いやり
- 児童生徒は素直で、ボランティアや地域の行事にも積極的に参加し、社会に貢献している。 - 学校の課題を詳しく示し、学校の取組の様子を今後も伝えてほしい。	- 規範意識が高く、言われたことに対して守ろうとする。 - 自己表現力が弱く、分かりやすく話したり書いたりすることに課題がある。 - 地域とのかかわりが強く、中学校区に対する愛着は強い。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	生活や社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を表現している。	生活や社会をよりよくするため、様々な情報を多面的・多角的な見方で分析し、課題を適切な方法で解決している。	よりよい生活や社会の実現のための目標を達成するために粘り強く工夫しながら取り組んでいる。	よりよい生活や社会の実現のために、他者に配慮しながら、多様性を尊重し協働して学び続けている。
		中学校区として統一した取組等	自分の考えを、話す・書く等で表現させる。	根拠を持って考えを表現させる。	目標を決めて、最後までやり遂げようとさせる。	相手の立場に立って考え行動させる。

III 自 校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	創造性	批判的思考・問題解決・意思決定	耐える力	人としての思いやり	
校区内での少子・高齢化の進展の中にあつての人材育成 ① 学力の定着と向上を図る。 ② 安心・安全で落ち着いた環境の中、豊かな感性を育てる。 ③ 地域の一員として、地域の行事に積極的に参加する生徒を育てる。		めざす子ども像	1年	日常生活や地域社会をよりよくするために、自分の考えや意見を話したり書いたりしている。	日常生活や地域社会をよりよくするために、様々な情報の中から必要な情報を活かし、解決している	より高い目標を達成するために、粘り強く取り組み、やりぬいている。	相手の立場に立って、誰に対しても思いやりの心を持って接している。
学校教育目標			2・3年	生活や社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書く等で表現している。	生活や社会をよりよくするため、様々な情報を多面的・多角的な見方で分析し、課題を適切な方法で解決している。	よりよい生活や社会の実現のための目標を達成するために粘り強く工夫しながら取り組んでいる。	よりよい生活や社会の実現のために、他者に配慮しながら、多様性を尊重し協働して学び続けている。
夢と志を持ち、社会に貢献できる生徒の育成							
現 状							
＜児童生徒＞ ・素直であり、校内・地域でのボランティア活動にも積極的に参加している。 ・体育大会や文化祭等では主体的に活動できるが、日常的なボランティア活動等には自ら進んで考え行動する主体性に課題がある。		研究		教科等 道徳			
				主題・内容等	自他を大切にし、認め合い高め合う生徒の育成 ～ 人権を尊重する授業づくり、人間関係づくり、環境づくり ～		
＜授業＞ ・ペア・グループを活用して、生徒どうしで「わからない」が言え、学び合いができつつあるが、思考を広げたり深めたりすることがなかなかできない。 ・進んで課題に取り組もうとするが、自分の考えと理由をうまく表現できない。 ・自ら考え学ぶ主体性に課題がある。		めざす授業の姿		課題に対して、自ら進んで考え、仲間と関わり合い、練り合いながら協働的に課題を解決していく、一人も残らず学ぶ授業			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 精華中 学校

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営目 標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力セ 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力セ 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	主体的で 深い学び	★	継 続	課題に対し て、自ら進 んで考え、 仲間と対話 を通し、課 題を解決し ていく、一 人も残らず 学ぶ授業づ くりの推進	①「解決したい」と 思わせる課題設定 や導入発問の工夫 図 ②目的を明確にし、 対話を通し、学び を深める場の設定 図・図 ③自主学習ノートで 効果的に学習させ る。	ア「解決しようとする課題について、『なぜ だろう』と思う。」生徒肯定的評価 回答 80%以上 イ「『やってみよう。』と思う。」生徒肯定的 評価 80%以上 ウ「授業で、対話を通し学びを深めている。」 生徒肯定的評価回答 80%以上 エ「授業で、対話を通し学びを深める場を 設定している。」 教職員肯定的評価 100% オ4月の学力テストの活用問題を 12 月に 再度実施し、正答率が上回る人 70%以上 カ体力テストの 50m 走で4月に測定した 記録を上回る人 70%以上									
				主体的に読 書活動に取 組む生徒の 育成	①「おすすめ本」紹 介文の作成 ②読書郵便 ③図書室利用向上	ア「おすすめ本」を持ち紹介できる生徒を 90%にする。 イ文化祭で読書郵便を行う。 ウ図書室を週に 1 回以上利用した生徒 50%以上									
1	自ら考え 判断し行 動する			主体的にボ ランティア 活動が行え る生徒の育 成	①月1回のボランテ ィア活動への積極 的参加 ②地域ボランティア への参加	ア「積極的に参加できた」生徒肯定的回答 80%以上 イ地域ボランティアに1回以上参加 70% 以上									
			主体的に環 境づくりに 取り組む生 徒の育成	①他者と協力しなが ら行う清掃活動 ②生徒の学ぶ意欲を 奮起する掲示物の 作成	ア「協力して清掃活動をしている」生徒肯定的 回答 90%以上 イ学習活動の成果を掲示する										
1	働 き 方 改革		新 規	教職員の笑 顔と元気を つくる	①業務改善の会議を 行う ②校務支援員の活用 の工夫	ア1ヵ月の時間外勤務が45 時間未満の職員を 70%以上									

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評価点	評価基準	評価点	評価基準	評価点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。